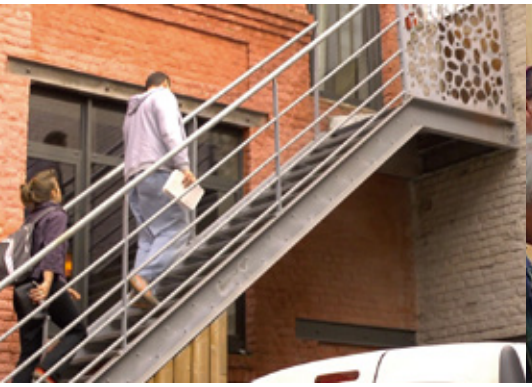
## ハウジングファースト国際シンポジウム

# 住まいを失った人（貧困、暴力、虐待、依存症、精神疾患、障がい、認知症…）の ソーシャルインクルージョンを実現する方法

～フランス、ベルギー、日本の実践から～



日時：10月8日（日）13:00-17:00（開場12:30）
会場：関西大学梅田キャンパス8階大ホール
会費：2,000円

## 「失敗するチャンスがある」

社会から排除され住まいを失った人が施設に収容されることなく、まず地域に自分の部屋を得ること、そこで自分のペースとスタイルで地域の一員として暮らしていくこと、支援者はそれを応援していくこと、それが「ハウジングファースト」です。地域移行・定着の支援モデルとして「ハウジングファースト」が有効であることは、すでに欧米では常識となりつつあり、私たちもその有効性を活動の中で実感しています。しかし「失敗」は日々生じます。それをどう捉えればよいのでしょうか。ただ住まいに定着することイコール「成功」なのでしょうか。当事者の生活の質の向上とソーシャルインクルージョンは、どのような指標で測ったらよいのでしょうか。

３回目となる本シンポジウムでは、フランスの社会学者からはその評価の指標について、またベルギーの“路上の看護師たち”（Infirmiers de rue）から実践の方法を学び、日本の実践家たちと共に「ソーシャルインクルージョン」を考えていきます。

## プログラム *日仏同時通訳付き

司会　：**槙野 友晴 氏**　ー NPO法人堺市相談支援ネット相談員
講演1：Pauline Rhenter氏　ー 保健社会学研究者
講演2：Sandrine Butaye氏　ー 公衆衛生/熱帯医学専門看護師
ブリュッセル Infirmiers de rue（路上の看護師たち）ハウジングファーストプログラム責任者
講演3：貧困報道記者からの公開質問
**原 昌平 氏**　ー 読売新聞大阪本社編集委員・精神保健福祉士
講演4：**齋藤 宏直 氏**　ー NPO法人みやぎ「こうでねいと」理事長
講演5：**高桑 郁子 氏**　ー 世界の医療団ボランティア看護師
講演6：**小川 芳範 氏**　ー NPO法人TENOHASI生活応援班ソーシャルワーカー
質疑応答

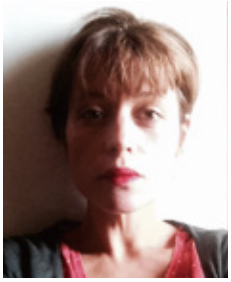
*プログラムの内容については変更が生じる場合がございますので、予めご了承ください。

主催：認定 NPO 法人世界の医療団
共催：コミュニティホームべてぶくろ、NPO法人TENOHASI、訪問看護ステーションKAZOC、一般社団法人つくろい東京ファンド、ゆうりんクリニック、NPO法人ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン
協賛：ヤンセンファーマ株式会社
後援：URP Osaka City University 大阪市立大学都市研究プラザ　楽安業居 日本居住福祉学会

*本シンポジウムは、科学研究費基盤研究（B）（海外学術調査）「東アジアにおける包摂型居住福祉実践に関する研究」（研究代表者：全 泓奎）の助成を得て実施しております。

お申し込み　：世界の医療団HP（ https://www.mdm.or.jp/ ）よりご登録ください。
お問い合わせ：ハウジングファースト国際シンポジウム事務局
Tel：03-3585-6436　　Email：mdm-event@mdm.or.jp

MÉDECINS DU MONDE 世界の医療団



## Pauline Rhenter（ポリーヌ・ロンテ）氏

**保健社会学研究者/政治学博士**
DIHAL（難民や貧困層にむけた住宅支援を手がけるフランス政府機関）が2011年より実施する公的ハウジングファースト・プログラム（アン・シェ・ソワ・ダボー）の公衆衛生研究チームにて、5年間活動に従事。2015年6月、「アン・シェ・ソワ・ダボー」の質的評価をまとめた340ページあまりのレポートを発表した。2008年～2012年にはWHO協力団体にて、フランスのメンタルヘルス分野のベストプラクティス提言活動にかかる研究及び普及活動に携わる。2003年より現在まで、フランスの国・地域のメンタルヘルスに関わる政策策定に際し、重度の精神障がい者ケアや精神医療の制度、職業慣習の見直しに努めている。

## Sandrine Butaye（サンドリン・ビュタイェ）氏

**公衆衛生/熱帯医学専門看護師**
**ブリュッセルInfirmiers de rue（路上の看護師たち）ハウジングファースト・プログラム責任者**
8年にわたり、路上生活者の支援活動に従事し、衛生状態の改善、感染症予防対策などに取り組む。当初より住宅支援、精神医療、社会福祉を軸にした支援アプローチを取り入れ、路上生活者の社会復帰や自立のサポートを行う。現所属団体「Infirmiers de rue（路上の看護師たち）」では、2013年よりハウジングファーストの実践を開始、地域社会に対するアドボカシー活動も担う。活動は実践だけにとどまらず、ベルギー国内やアイルランド、フランスなどでもハウジングファーストの啓発活動を行っている。

## 原 昌平（ハラ ショウヘイ）氏

**読売新聞大阪本社編集委員・精神保健福祉士**
1959年、大阪府生まれ。1982年、読売新聞大阪本社に入社。京都支局、社会部、科学部デスクを経て現在、同社編集委員。1996年から医療と社会保障を主に担当。1998～2001年という早い時期に、急増したホームレス問題のルポ・キャンペーン報道に取り組んだ。その後も貧困問題や精神医療に重点を置き、社会的弱者の側に立った報道を続けている。近年はネットの「ヨミドクター」のページで「医療・福祉のツボ」という論考を長期連載中、そのうち「貧困と生活保護」のシリーズは50回に達した。精神保健福祉士、社会福祉学修士、大阪府立大学客員研究員。

## 齋藤 宏直（サイトウ ヒロナオ）氏

**NPO法人みやぎ「こうでねいと」理事長**
1953年、仙台市生まれ。2003年に障がい者自立支援プロジェクト設立。2013年に生活弱者のための居宅支援事業NPO入居サポートセンターみやぎ開設。仙台市でのモデル事業で独自運営のノウハウの提供によりNPO法人東京こうでねいと（町田市）、京都こうでねいと（京都市）を開設。岩手県盛岡市、花巻市、宮古市での居宅支援講演により、福祉居宅構想「ホームレスからの脱出そこにある住まいの活用」を自治体に提供。趣味は蓄音機。

## 高桑 郁子（タカクワ イクコ）氏

**世界の医療団ボランティア看護師・首都医校教員**
横浜国立大学大学院博士後期課程修士（学術）医療人類学、国際保健、多文化看護
エクアドル（2年）、スイス（11年）で看護師として経験した後、2013年4月に日本帰国、2013年7月より池袋で行われる月2回の医療相談会を主にHFTPの活動に参加する。現在は、医療相談会、夜回り、ゆうりんクリニック、Kazoc訪問同行と、フィールドワーク兼ボランティア看護師として活動する。国際緊急援助隊登録。

## 小川 芳範（オガワ ヨシノリ）氏

**NPO法人TENOHASI生活応援班ソーシャルワーカー・精神保健福祉士**
1962年、愛知県名古屋市生まれ。2002年ブリティッシュ・コロンビア大学哲学科博士号取得。
カナダから帰国後、10年間ほど大学教員などを経て現職に就く。「ハウジングファーストの人間観と支援アプローチ」（『賃金と社会保障』2017年3/10号）

## 槙野 友晴（マキノ トモハル）氏

**NPO法人堺市相談支援ネット相談員・精神保健福祉士**
1980年、大阪府堺市生まれ。精神科病院が運営する地域活動支援センター、宿泊型生活訓練事業所で生活支援員の後、ハウジングファースト東京プロジェクトでの相談員の仕事を通して路上生活者の支援を経験する。
現在はNPO法人堺市相談支援ネットで相談員として従事。